

京都市はぐくみ推進審議会「親育ち促進部会」の開催結果について

1 日程

令和3年2月25日（木）から令和3年3月5日（金）まで

2 審議案件

- (1) 親育ちに係る事業の実施状況について
- (2) ほっこり子育てひろば プログラムの修正及び新規作成について

3 審議方法

書面審議

4 各委員からの回答状況（委員14名中）

回答有 14名

回答無 0名

5 審議結果

各委員からの御意見について、本市の見解を回答

(1) 親育ちに係る事業の実施状況に関すること

御意見の内容	本市の見解
コロナ禍であっても、親育ちに係る事業を実施いただいたことに感謝いたします。	引き続き、コロナ禍においても事業を実施できるよう、感染拡大防止対策の徹底や、実施方法の工夫等に取り組んでまいります。
本事業は、京都の子育て・親育て環境の基盤を支えるものであるため、幅広く受け入れることができるよう進化していったほしいです。	本市ならではの「はぐくみ文化」の力を遺憾なく発揮し、引き続き、本事業の充実と受皿の拡充に努めてまいります。
コロナ禍においても、必要な感染拡大防止対策を講じたうえで、事業を実施されたスタッフの皆様にご心より敬意を申し上げます。 コロナの影響により、居場所が減少している保護者には、大変喜んでいただけたと思います。	引き続き、感染拡大防止対策等を徹底のうえ、親育ちに係る事業の推進に取り組んでまいります。
親育ちに係る事業については、中高生から子育て中の親までの各世代に、抜け目なく支援が行き届いており良いと思う。	引き続き、親育ちに係る事業の推進に取り組んでまいります。
資料2について、特に赤ちゃんや幼児と交流する事業については、より一層の感染拡大防止対策の徹底が大切だと思う。	中高生が乳幼児と関わる「青少年と乳幼児のふれあい事業」については、一層の感染拡大防止を徹底するとともに、幼児と触れ合う活動はリモートや作品交換等の間接的な交流についても検討してまいります。

御意見の内容	本市の見解
<p>コロナによる影響が長期化する中、どのような対策や実施の工夫があるのかが見えてくると、取組を進めやすいと思うので、他団体等での具体的な実践例を知る機会や資料があればよいと思う。</p>	<p>御意見いただきましたとおり、コロナ禍における親育ちに係る事業の在り方を検討していくに当たっては、他事業や他都市での先進的な事例等も参考にしながら取り組んでまいります。</p>
<p>コロナ禍において、「青少年と乳幼児のふれあい事業」や「次世代はぐくみプロジェクト」の実施は困難であったと思います。</p> <p>コロナの感染拡大が収まった際に、各事業をスムーズに再開できるよう、研修内容のブラッシュアップや参考事例の収集等、今後の展開における準備を進めると良いのではないかと思います。</p> <p>また、感染拡大防止対策として、1回当たりの参加者数の制限が今後も続く場合は、その分実施回数を増やすなどの前向きな工夫ができればと思いました。</p>	<p>御意見いただきましたとおり、新型コロナウイルス感染症の収束に合わせて、円滑に各事業を運営できるよう準備を進めるとともに、コロナ禍においても事業を運営できるよう、感染拡大防止に係る環境整備のみならず、オンラインでの開催等についても、様々な見地から検討し、見直してまいります。</p>
<p>分かりやすく資料をまとめていただき感謝します。</p> <p>対面での交流によって、元気を分かち合ったり、気づきや学びを得る効果が高いことは今までの成果で分かりますが、今後のコロナの状況によって、事業の普及を妨げる要因となるのであれば、オンラインでの実施も検討してみたいかでしょうか。</p> <p>子どもがいる中で、スマホの画面に保護者が釘付けになることは推奨しませんが、工夫次第で、一定の効果は期待できます。</p> <p>当団体のHPにも、オンライン子育て広場の手引を今週中には掲載します。</p>	<p>御意見いただきましたとおり、コロナ禍における事業の実施につきましては、感染拡大防止に係る環境整備のみならず、オンラインでの開催等についても、様々な見地から検討してまいります。</p> <p>また、オンラインでの実施に当たっては、貴団体のHPを含め、他事業や他都市での先進的な事例等も参考にしながら取り組んでまいります。</p>

(2) ほっこり子育てひろばのプログラムに関すること

御意見の内容	本市の見解
<p>今後も「ほっこり子育てひろば」の進行を担う支援者が、保護者の悩みやストレス、不安等を理解し、共感し続けてほしい。</p> <p>また、子育てに悩み、苦しんでいる保護者も多いため、親の頑張りを認め、褒めていくことで支援していただければと思います。</p>	<p>「ほっこり子育てひろば」の支援者については、保護者が抱える様々な悩みや不安を理解・共感できるように、スキルアップを図る研修会や支援者同士の意見交流会等に積極的に御参加いただきます。</p> <p>今後も、ファシリテーターとしての資質が向上するように、取り組んでまいります。</p>
<p>親支援プログラム策定以降、少子化や共働き世帯の増加等、子育てを取り巻く環境とともに親子の在り方も変化し続けている中で、同プログラムの内容の見直しに取り組んでいただいたことに感謝いたします。</p>	<p>親支援プログラムについては、今後の子育て環境や保護者のニーズ等の動向を注視しながら、今後も必要に応じて内容の見直し等に取り組んでまいります。</p>
<p>支援者（ファシリテーター）の育成が求められるため、研修や講座等の充実を図り、事業を実施していただきたいと思います。</p>	<p>支援者の育成については、スキルアップを図る研修会や支援者同士の意見交流会等の充実を通じて、新しく作成したプログラムテーマを含め、円滑に進行できるよう取り組んでまいります。</p>
<p>新テーマの「関わる」について、SNSについてのトピックを作った方が良いと思う。</p> <p>スマホを持つと、SNSを使用する可能性が高くなることに加え、家族の中で話し合える機会を作る意味でも、SNSをトピックとして設けてみてはどうか。</p>	<p>本プログラムテーマにつきましては、「スマホ」等の情報機器を親子の共通話題として、日頃からの親子間のコミュニケーションの取り方やその大切さについて話し合っていただくことが主な目的となっています。</p> <p>SNS等の話題につきましても、家庭内で話し合っただけのよう、配布資料等で周知してまいります。</p>
<p>今後に向けた提案として、ICTの利活用については、その捉まえ方も含めて日進月歩である中、今般のGIGA スクール構想の展開により、子どもたちのICTの利活用が一気に進んでいるため、むしろ保護者の理解促進が求められる場面が想定されます。</p> <p>学校現場で実際に行われていることや保護者のニーズを踏まえ、定期的かつ機動的にプログラムの内容をアップデートされる仕組みづくりを提案します。</p>	<p>GIGAスクール構想の展開により、教育現場におけるICT化が急激に進んでおり、スマホ等を含めた情報機器については、子育てをしていくうえで密接に関わってくるのが想定されます。</p> <p>研修会等を通じて支援者のICTに関する理解を深めるとともに、ICTを含めた子育てを取り巻く環境や保護者のニーズに寄り添ったプログラム内容となるよう、適宜見直しを行ってまいります。</p>

御意見の内容	本市の見解
<p>新しいプログラムテーマの内容を拝見し、今の保護者のニーズに合ったものになっていると感じましたが、短時間で可能なプログラムがより増えると、母親中心のサークル等でも活用しやすいのではないかと思います。</p>	<p>新しく作成した2つのプログラムテーマのうち、「子育てのこと 話しましょう」については、短時間でも対応できるよう、30分のプログラムを作成しています。</p> <p>今後、実際に実施していく中で、必要に応じて見直しを行い、幅広く御活用いただけるように取り組んでまいります。</p>
<p>参加者も多く、保護者のニーズも高い事業だと思います。</p> <p>既存プログラムの修正や新規テーマの考案など、今後の事業展開に向けて準備を進めておられることがよく分かりました。</p>	<p>今後も子育てを取り巻く環境や保護者のニーズに寄り添ったプログラム内容となるよう、適宜見直しを行ってまいります。</p>

(3) その他

御意見の内容	本市の見解
<p>今後「ほっこり子育てひろば」の参加者が増えたら良いのになと思います。</p> <p>子育て等について、一人で悩み、孤立してしまっている方も多いため、周囲の声掛けが必要だと思います。</p>	<p>今後も「ほっこり子育てひろば」を通じて、子育てに係る悩み等について気軽に話し合える保護者同士のつながりがさらに形成できるよう、取り組んでまいります。</p>
<p>今年度はコロナ禍により書面での開催となりましたが、年に3回ほど、対面で審議会を開いた方が良いと思います。</p>	<p>審議会の開催方法や回数については、引き続き、新型コロナウイルス感染症の動向も注視しながら、慎重に判断してまいります。</p>
<p>京都で子どもを産んで良かった、子育てをして良かったと実感いただけるよう、親育ちに係る事業を促進し、子育て環境日本一へ繋げていってほしいです。</p>	<p>引き続き、親育ちに係る事業の推進に取り組んでまいります。</p>
<p>本事業をきっかけに、保護者が地域の支援者や子育て仲間と出会い、少しでも子育てを楽しんでもらうとともに、いずれ支援者となって御活躍いただけたらと思います。</p>	<p>引き続き、親育ちに係る事業の推進と共に親育ちを担う人材の育成についても取り組んでまいります。</p>
<p>資料の「参考2-4」における「Q4」の回答で「テーマを決めずにただ話をする方がよかった」が4.3%と2%の2つあり、どちらかの回答が違っているのではないかと。</p>	<p>資料データの誤りです。申し訳ございません。</p> <p>正しくは「テーマを決めずにただ話をする方がよかった」が4.3%、「話しにくかったので、話し合う形式ではなく、聴くだけの方がよかった」が4.4%となります。</p>
<p>事業内容を分かりやすく取りまとめていただき感謝します。</p> <p>私は、児童館職員として、「親子クラブ」や「中高生世代と赤ちゃんとの交流活動」を担当していますが、昨年はコロナの影響で、通常とは異なる形での開催を余儀なくされました。</p> <p>来年度こそは、感染拡大防止対策を万全にしながら、より良い形で、子育て支援や、中高生世代との交流などの様々な取組ができればよいと思います。</p> <p>今回の資料を今後の参考にさせていただきます。</p>	<p>引き続き、感染拡大防止対策を徹底しながら、親育ちに係る事業の推進に取り組んでまいります。</p>
<p>今年度は、あらゆる環境が今までから一変した中で御対応いただき、感謝申し上げます。</p>	<p>引き続き、感染拡大防止対策を徹底したうえで、親育ちに係る事業の推進に取り組んでまいります。</p>

御意見の内容	本市の見解
<p>コロナ禍により、通常の事業実施ができない中で、親育ちに係る各事業の今後の展開、実施の方向性等を、短期・中期的に見直していく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>現在、京都市は財政難の中ではありますが、各事業の趣旨を踏まえた変更であることが大切だと思います。</p> <p>継続・実施可能な範囲を確認しながら、計画や実態の空洞化にはならないよう、我々も努力していきたいと思えます。</p>	<p>御意見いただきましたとおり、コロナ禍における事業実施については、感染拡大防止に係る環境整備のみならず、オンラインでの開催等実施の在り方についても、様々な見地から検討し、見直してまいります。</p>
<p>2021年4月1日付けで母子保健法の一部改正がされ、産後ケア事業の義務化が全国展開されることとなっています。</p> <p>このような背景から「親支援」についても、早期からのアプローチが重要であると考えます。また、京都市では、産後ケア事業として「京都市スマイルママ・ホッと事業」を実施していますが、同事業の委託先は分娩入院の取扱がある施設となっており、市民の利用が低くなっています。</p> <p>分娩を取り扱わない助産院についても、事業の委託先となるよう切に願っています。</p>	<p>「京都市スマイルママ・ホッと事業」について、母子保健法の一部改正を受け、本市においても対象月齢の拡大及び受け皿の確保について、検討を重ねているところです。</p> <p>また、引き続き、特に育児不安を抱えやすい産前産後の母親にも、親育ちに係る事業等の推進を通じて支援できるよう、取り組んでまいります。</p>